

唾液腺健康医学解析実習（猿田 樹理）

Training of Salivary Gland and Health Medicine（Juri Saruta）

キーワード

- ①口腔科学
- ②唾液腺健康医学
- ③唾液組成
- ④唾液機能
- ⑤全身疾患との関連性

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

①,②,③

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,③,④

授業概要

近年、実験機器や技術が著しく発展しているが、本実習では唾液腺の機能や唾液分泌のメカニズムを理解するために、唾液腺および唾液検査に関する基本的な実験手技を修得することを目標とする。具体的には、(1)動物実験の手技(解剖・唾液腺の剖出)、(2)遺伝子解析(PCR)、(3)蛋白解析(ELISA、ウェスタンブロット)(4)形態学的解析について実習を行い、(5)げっ歯類からの唾液の採取法についても身につける。以上の実習を通じて唾液腺健康医学講義の知識の深化と技術修得を行うことを目的として開講する。

授業科目の学修目標

唾液は99%以上が水であるが、残りの部分は局所あるいは全身に由来する多くの無機物や有機物で構成されている。また唾液は、全身の健康や疾患状態に影響を及ぼすことが知られている。そこで本科目では実習を通じて、唾液・唾液腺の必要な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ①唾液腺健康医学的研究計画立案実習 12コマ
実習を通じて、問題発見能力を育成すると同時に研究計画の立案の基本を教授する。
 - ②唾液腺形態学的解析基礎実習 24コマ
唾液腺学的研究に必要な形態解析手法を遺伝子およびタンパク質のレベルで教授する。
 - ③唾液腺由来培養細胞解析実習 12コマ
唾液腺由来培養細胞を用いた時の培養方法の基本的な手技や解析方法を教授する。
 - ④唾液腺疾患モデル動物学実習 12コマ
唾液腺疾患モデルの作成方法および手技を教授する。
- 実習担当教員 猿田樹理

教科書および参考書

唾液の科学 一世出版 監訳 石川達也・高江洲義矩

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、実験プロトコルを指導教員と共に確認を行い、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 唾液腺健康医学的問題点を提議し、唾液腺健康医学的研究計画の立案ができる。
- ② 唾液腺形態学的解析の理論を理解し実践することができる。
- ③ 唾液腺由来培養細胞の基本的な手技の理解し実践することができる。
- ④ 唾液腺疾患モデル実験動物の作成方法の理論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
40%	0%	20%	0%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、授業計画の4項目について課題を提出する。5%×4回=20%
- ・実技は、授業計画の4項目についてプロダクト達成度を判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

唾液腺健康医学解析実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。